

<h1>第 332 回 月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 西山	企画運営委員 保科

◎ 日 時 2021年5月21日（金）13時00分～16時30分

◎ 場 所 リモート開催（Zoom）

◎ 出席者 22名（法人会員：12社14名 個人会員：8名）

1. 挨拶 13:00～13:05

企画運営委員会 西山委員長

主な内容：企画運営委員会体制の紹介、MSEメールニュース再開の連絡、他**2. 自己紹介・トピックス** 13:05～13:40**主なトピックス**

第13次労働災害防止計画の重点施策である「高校、大学等と連携した安全衛生教育の実施」が具体的に動き始めた。（厚生労働省）

3. 報告テーマ「安全確認型研究グループ活動／第3～4回」 13:40～14:00

安全確認型研究グループ 佐藤主査

第3回 3月14日（日）13～16時、ZOOM、参加者28名（拡大会議として開催）

杉本先生講演（安全確認型の発想と構築）、

第4回 4月11日（日）13～16時、ZOOM、参加者8名

安全確認型の定義について意見交換。

参加は自由なので、興味のある方の参加を歓迎する。（次回6月13日予定）

4. 報告テーマ「会員企業の安全活動紹介／日本製鉄(株)」 14:10～15:10

個人会員 佐柳氏

前半は、ビデオによる製造工程説明。全社の活動方針や過去の重大災害を反映して決めた安全に関する全社共通遵守事項“6則ルール”や、安全日報・重大災害事例集等の全社の活動事例を説明。

後半は、回転フィーダ部トラップドキーシステム採用事例、船内重機バックドローザROPS（Roll-Over Protective Structure）改造事例、プレス機械災害防止事例などを紹介。

主な質疑応答

Q：なぜ非可動措置が守れないのか、または、どのクラスの人が守らないのか。

A：操業を任せている班長クラスに災害が多い。トップからの「躊躇なく可動設備を止めよ」という指示が、現場の末端まで浸透していないことが課題。

Q：リスクアセスメント(RA)を実施する上での問題点は？

A：計画段階、設計・製作段階、設備引渡段階の段階で実施することになっているが、設計・製作段階で詳細にRAを実施するには時間と労力がかかるため、いかに効率的に各段階で実施していくことが今後の課題。

5. 討議テーマ「リスクアセスメントの目的と危険源同定方法」

15:20～16:30

「機械安全運用とリスクアセスメントの実例紹介」 企画運営委員会 保科委員
日常業務で機械安全を運用するための責任権限を含めた組織体制、文書・実機に対する設計審査や文書管理の運用要領、リスク評価と保護方策の安全基準を定め、適合宣言するためのエビデンスとしてリスクアセスメントを位置づけ、全てのリスクアセスメントをデータベース化し、誰もが検索・閲覧できるようにした。データベースの活用により、危険源同定や保護方策選定で効果を上げている。

主な討議

合理的に予見可能な誤使用などは、機械使用制限設定表に記載している。
リスクアセスメントの妥当性確認は、機械図・電気図を基に検証している。
初めてリスクアセスメントを行う会社は、キーマンに安全技術を教育すべき。
現場のリスクアセスメントでは、生産技術や保全の技術者からの支援が必要。

月例会説明資料： 会員専用ページに掲載

資料番号	資料名
313-2-1	テーマ「機械安全運用の事例紹介(リケンにおける機械安全の運用について)」

以上